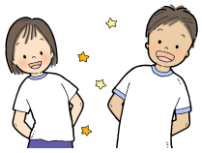

相ノ木っ子だより

平成３０年度
学校だより
１２　月　号
上市町立相ノ木小学校

ほんのちょっとの一言で

「〇〇したら、だめだよ」「だめだよ。しられんよ」「あー、悪いー」

子供同士のやり取りでよく聞く言葉です。発している子供たちは、学校でのルールやマナー、生活の安全面等を考え、判断し、よかれと思っての友達への注意だと思います。しかし、言われた方の気持ちはどうでしょうか。「だめ」「悪い」といった自分を非難する言葉しか入ってこず、悲しくて、嫌な気持ちになるのではないでしょうか。そして、注意されたことによって、かえって意固地になってさらにエスカレートするかもしれません。また、その言葉の雰囲気から察すると、注意した方は、もしかしたらその行為によって少しでも友達より優位に立てる、そんな上から目線の理由が根底にあるのかもしれません。でも、友達同士で注意し合うことは、子供たちが今後の人間関係をきちんと築いていくためにはとても大切なことだと考えます。将来人の危険な行為や反社会的な行為を見て見ぬふりをするような大人にはなってほしくはありません。では、どうすればよいのでしょうか。

こういった時は、「だめ」「いけない」という否定的な言葉ではなく、「〇〇した方がいいよ」「〇〇すると、すてきだよ」といった提案型の投げかけを友達にしてあげるのがよいと思います。また、本当に友達のことを考えて諌めるのであれば、「悪い」で片付けるのではなく、その行為がよくない理由をより具体的に、真剣に言ってあげるべきだと思います。「そんなの、子供たち同士では無理ですよ」と思われるかもしれません。確かに、友達の行為を見て、自分の中で受け止め、相手のことを考え、よりよい方法を提案してあげるというのは、たいへん高尚なことかもしれません。わたしたち大人でも、即座に行為の否定を言いがちです。でも、子供たちには少しずつでもそんな言葉がけができるようになってほしいです。

相ノ木っ子だより５月号の「『一秒の言葉』にある重み」で、「走られんよ」「そうじ、始まるよ」といった優しい言葉がけ、「はい」「うん、分かった」という素直な反応を褒めました。さらに、相手の行為に即座に反応するのではなく、一度立ち止まって、相手の気持ちをよく考えて投げかけることを勧めたいのです。ほんのちょっとの一言に、それだけの友達への思いがあれば、もっともっとよりよい人間関係づくりができ、とてつもなく子供たちは成長するのではないでしょうか。ですから、わたしたち大人が、そんな思いをもって子供たちに接することで、子供たちは真似をし、友達同士で心が磨き合われると思います。

その一言
その一言で励まされ　　その一言で夢をもち
その一言で腹がたち　　その一言でがっかりし　　その一言で泣かされる
ほんのわずかの一言が　　不思議に大きな力もつ　　ほんのちょっとの一言で

これは、高橋系吾さんの「その一言」という詩です。ほんのわずかの一言が、人の心に大きな変化をもたらすことがあります。たった一言の言葉から元気や勇気をもらい、将来への夢をもつことがあります。また、ほんの一言で心が傷つき、怒らせてしまうこともあります。それだけ、一言であっても言葉は大きな力をもっているのです。

わたし自身、小学校高学年の通知表で担任の先生から次のような所見をいただきました。「授業中、落ち着きがないところがあります。しかし、とても素直で、優しいです。トイレ外のじめっとした所にサッカーボールが転がっていった時、他のみんなは躊躇していたのに、真っ先に取りに行ってくれました」早くサッカーの続きがしたいという一心だったのに担任の先生はそんなふうに思ってくれたんだ、自分には素直で優しいところがあるんだ、と感じました。また、初任の頃、校長先生から次のような言葉をいただきました。「おもしろい奴やの。思ったことどんどんやられや。後は、俺が責任もつから」自分を認めてもらったというううれしい思い、「よし、やるぞ」という張り切る気持を抱いたものです。

当時の学級担任の「素直」「優しい」、校長先生の「おもしろい」「どんどんやられ」は、その後の自分の人格形成に大きな影響を与えてくれました。ですから、相手に投げかける言葉って本当に大切なんだと実感しています。ぜひ、子供たちにも、相手を思いやる、優しい言葉を投げかけてほしいですし、投げかけられた言葉から相手の心遣い等を感じ取ってほしいです。

最後に、大村はまさんの一言です。

ことばというのは人間の宝物です。ことばがあるからこそ、人間が人間になるのです。

嫌いなこと、つらいこと、小さなこと

先月末にミニ駅伝大会を行いました。一つの班７～８人が１周ずつタスキをつなぎ、全員で８周を走り切ります。赤、白、青各団６班ずつあり、班の合計タイムで団の勝敗を競い合います。秋晴れの清々しい空の下、霞む剱岳を望みながら、子供たちは一生懸命の走りでタスキをつないでいました。普段、いきいきタイムのさわやかランニングで３分間走り続けている子供たちは、毎日およそ２００ｍトラック３周程度走っています。今回は、これまで鍛えてきた脚力、心肺機能を生かし、１周ずつがんばりました。

合計タイムの集計が必要なため、大会結果は昼の校内放送で発表され、子供たちは興味津々で聞き入っていました。「１位白団、合計タイム３８分１９秒」白団の子たちからは大きな歓声が起こりました。「２位青団、合計タイム３８分２４秒」「３位赤団、合計タイム３８分３９秒」青団、赤団にとっては残念な結果でしたが、注目すべきは各団の合計タイム差です。１位白団と２位青団の差は、わずか５秒でした。また１位白団と３位赤団でも、２０秒しか差がありませんでした。８周×６班＝４８周の合計タイムの競い合いですから、本当に接戦だったことが分かります。一人一人がちょっとずつタイムを縮めていたら、どの団も優勝のチャンスがあったことでしょう。一人一人の力を積み上げることの大切さを子供たちは感じ取れたように思います。

しかし、走ることや持久走での子供たちの身体的、心理的な差は大きなものです。この大会に意欲満々な子ばかりではありませんでした。「嫌だな」「つらいな」と思いながらもがんばっていた子もいます。得意なこと、好きなことをどんどん伸ばすことが大事ですが、苦手やつらさに負けないことも必要であり、大切なことでもあります。あのイチロー選手が、こう言っています。

嫌いなことをやれと言われてやれる能力は、後でかならず生きてきます。

自分の得意なことや好きなことばかり練習していては、もっとできることがあるかもしれない「本当の自分の力」を発揮できずに終わってしまいます。自分自身を磨き、力を伸ばしていくには、たとえ嫌いなことであっても、そのことに取り組み、努力を続けることが必要です。これは、運動に限らず、学習等いろいろなことにも言えるでしょう。しかし、子供たちの中には、「〇〇が嫌いだからやらない」「〇〇はつらいからいやだ」と全く取り組もうとしない様子が時々見られます。小学生は、自分のこれからの可能性を広げていく大事な時期です。「自分は〇〇だから」と決めつけずに、何でもチャレンジしようとする素直さや真面目さが、将来の自分に必ず役立ちます。

また、イチロー選手は、次のようにも言っています。

夢や目標を達成するには、一つしか方法がない。小さなことを積み重ねること。

嫌いなこと、つらいことにも意欲的に取り組み、小さなことにもこつこつ努力する相ノ木っ子であってほしいです。

行事予定（12月中旬～1月中旬）

１２月２０日（木）	地区児童会　下校 14:40
２１日（金）	第２学期終業式　下校 13:15
２３日（日）	天皇誕生日
２４日（月）	振替休日
２５日（火）	冬季休業（ ～1/7）
１月　１日（火）	元日
８日（火）	第３学期始業式　書初大会
１４日（月）	成人の日